

平成29年度愛鳥週間用ポスター図案コンクール審査講評

1 審査員

雲南市立佐世小学校	松本 真理
松江市立大野小学校	大野 寛人
島根県農林水産部森林整備課鳥獣対策室	多根 純

2 講 評

(1) 出品状況

小学校4校、中学校29校、高等学校6校、特別支援学校5校の合計44校から、449点が出品されました。

授業や部活動などで、愛鳥週間をテーマに取り組まれていました。このコンクールへの応募を契機として、今後とも環境への関心を高めていただきたいと思います。

(2) 作品全体の印象

今年度も、野鳥の色彩の美しさや形をよくとらえ、ていねいに描かれている作品が多くありました。採餌の様子や給餌の様子、群れでの暮らしや親鳥が卵を温める様子など、野鳥の暮らしを表現した作品が多く見られました。

また、漁村、農村、街中など、人々の日常の暮らしの中で見られる野鳥の姿や人間と野鳥のかかわりを描いた作品が多く見られ、このような野鳥の暮らす自然を守っていきたいという、児童・生徒の思いや願いが描かれていました。

ふるさと島根ならではの風景を取り入れた作品も多くあり、自然環境の豊かな島根だからこそ、各学校の野鳥愛護への関心が高く、そこで学ぶ子どもたちも表現豊かな作品を描けるのだと思います。

(3) 小学生の作品

全体的に、野鳥の形や色合いなど、特徴を良くとらえて描いた作品が多くみられました。

野鳥を観察する様子や、野鳥とふれあう姿など、具体的な野鳥との関わりをテーマにして描いた作品も多くありました。

今後も、興味をもって野鳥を観察し、自分がとらえた野鳥の姿を描いて欲しいと期待しています。

(4) 中学生・高校生、特別支援学校の作品

全体的に時間をかけてしっかりと表現した作品が多く、力作、秀作が目立ちました。

中学生、高校生とも、野鳥の姿や生態、生活環境などをとらえて、野鳥そのものや背景まで気を配り、表現した力作が多く見られました。また、野鳥の羽の細やかな線や色合いまで丁寧に描かれていました。

特別支援学校は、作品数は少なかったですが、誠実で素直に制作に向かう姿勢が伝わってきました。描いてみたい野鳥を選んで、表し方を工夫して描かれていました。